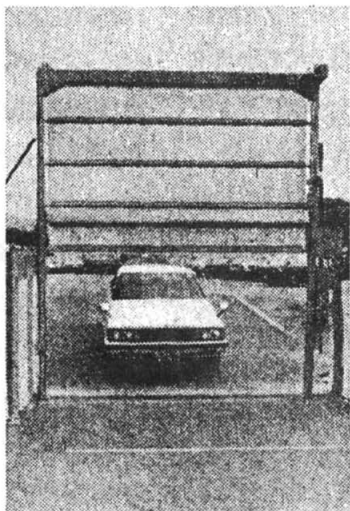


高速開閉スイスイ

自動シャッター開発

小松電機
産業

制御配電メーカーの小松電機産業(本社鳥取県八雲村、社長小松昭夫氏)は超音波センサーを組み込んだ自動開閉式のシートシャッターを開発した。門番と名付けたこのシャッターは工場や倉庫、工事現場などの出入り口にすでについている扉やシャッターを残したまま、簡単に取り付けられる。同社は「仕組みは簡単だが、中小企業ならではのスキマ商品を狙った。寒冷地の工場向けに防寒用シャッターとして開発したが、車の出入りの多いところならどこに設置しても便利」としており、近く全国販売に乗り出す。



開発された超音波センサーを組み込んだハイスピードシャッター(小松電機産業で)

取り付けも簡単

車の出入り口などに

開発した自動シャッターは最大限幅5尺、高さ5尺までのような出入り口にも取り付け可能。シャッター材として厚さ〇・六のビニールシートを使用しているため、採光性もよい。超音波センサーで、車両が近づくと自動的に開き、障害物検知による下降防止などの安全機構も付いている。開閉速度は毎秒〇・六尺と同〇・九尺の二種類で、従来の鉄や布のシャッターに比べると抜群に速い。さらに部品が標準化されているため、組み立てが容易で、二時間以内で取り付けられるなどの

特徴がある。価格は出入り口の大さきによって異なるが、約千六百五十万円から七十五万円。

この新製品開発のきっかけは数年前、得意先の大手農機具メーカーから「工場の防寒用シャッターを考案してくれないか」と要請を受けたことから、同社ではこれまでに約三十台の各種自動シャッターを開発、このノウハウを基に、約二年前から汎用自動シャッターの研究開発に着手、同社が加盟している異業種交流グループ、松江

工業研究会(松江商工会議所の音

頭で昨年五月に設立、加盟二十五社のメンバーなどの応援を得て、このほど商品化に成功した。

同社はこれまで配電盤を中心とした自動制御機器を中心にエサの注文に応じた多品種少量生産に徹していただけに、小松社長は「ハイスピードのシートシャッターは当社が広く世に問う初めての商品」と意気込み、年内約千台の販売計画を立てている。